

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	土木部用地対策課	氏名	中西 絵里奈
派遣先 団体名	NPO法人 出雲学研究所		
① 研修日程			
9月18日(日) イベント「月見の宴」運営補助			
10月15日(土) 定例講演会「漢代画像石の話」運営補助			
10月16日(日) 定期講座「風土記談義」運営補助			
10月23日(日) イベント「古代米稲刈り」運営補助			
12月 4日(日) 「出雲学フォーラム」運営補助			
② 研修の内容			
出雲学研究所は、荒神谷博物館の運営、出雲学フォーラムの開催、定期講座出雲学談義の開催等を中心に、出雲地域の歴史文化の発信を目的とする活動を行っているNPO法人。今回の研修ではイベントを中心に活動に参加させていただいた。			
■9月18日(日) イベント「月見の宴」			
場所	荒神谷博物館 交流学習室(テラス)		
内容	大正琴などの演奏と共に月見を楽しむイベント。今回が初開催で、主演者は地元のサークルを中心に、日本舞踊教室生徒さんによる日舞、高校生によるアコースティックライブ、相撲甚句、大正琴の演奏が披露され、小学生から60代以上の方まで幅広い年代の方が日頃の成果を披露した。 あいにくの雨模様で残念ながら月を愛でることはできなかったが、それでも多くの来場者が訪れ、秋の夜風を感じながら演目を楽しんでいた。 当日は、会場設営や案内などをさせていただいたが、雨の中、出雲市内だけでなく松江市からも多くの方が訪れ、予想以上の賑わいであった。一番初めの研修が初開催のイベントということで、どのような様子か緊張しながらの参加であったが、スタッフの方だけでなく地元の方たちが一体となって盛り上げるアットホームなイベントであった。		
■10月15日(土) 平成28年度定例講演会第7回「漢代画像石の話」			
場所	荒神谷博物館 交流学習室		
内容	年間を通して定期的に行われる講演会の第7回目。今回は岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの岩崎氏による中国漢時代の墓石に施される画像彫刻に関する講演が行われた。 あまりなじみのないテーマだが、古代中国の死後世界観について分かりやすく知ることができる講演であった。荒神谷博物館の講演会のテーマがなぜ漢代の話なのか何だったところ、漢代は日本では弥生時代にあたるため、出雲の古代史にも思想的・文化的に影響が大きかったとされるそう。出雲の古代史を学ぶ上で世界との関連を考えることは非常に重要であるため、定例講演会の題材として選ばれたということだった。		

当日は、受付などの運営補助をさせていただいた。参加者は常連の地域住民の方が中心であったが、皆さん大変熱心に聴講しており、日本の古墳壁画に関連した質問が出るなどレベルが高く、驚いた。

■10月16日(日) 定期講座「風土記談義」

場所 荒神谷博物館 交流学習室

内容 月1回、出雲国風土記・常陸国・播磨国・肥前国・豊後国の五風土記を分かり易く読み進めていく講座。平成24年4月に開始し、現在は豊後国風土記の講義中。

当日は、受付などの運営補助をさせていただいた。日曜日の午前中にもかかわらず、80人ほどの会場がほぼ満員になるほどたくさんの方が受講されており、半数以上が今年度皆勤賞の常連であった。中には平成24年の初回からほぼ毎月欠かさず参加しているという方もおり、4年分の資料にはびっしり書き込みがされていた。定例講演会の際も感じたが、参加者の学習意欲が非常に高く驚いた。現在は、豊後国風土記の講座だが、出雲国風土記の講座はさらに参加者が増えることだった。

個人的には学生時代少し勉強したにもかかわらず風土記に対してとっつきにくいイメージがあったが、新聞記事等の最近の話題も交えて解説してもらうことで、古代世界を身近に想像することができた。

■10月23日(日) イベント「古代米稲刈り」

場所 荒神谷博物館 敷地内の田んぼ、交流学習室

内容 毎年行われる定例イベント。博物館の敷地内で栽培されている古代米の赤米の刈り取り体験の後、地元婦人会のボランティアさん等によって用意された赤米・黒米と野菜汁が振る舞われた。このイベントは1年を通して、田植え・稲刈り・餅つきの3種類のイベントが開催され、毎回参加、毎年参加のリピーターも多いそうだ。

当日は、受付や配膳を手伝わせていただいたが、雨が降り出しそうな曇空の中、親子連れを中心に、出雲市内だけでなく松江市からも多くの参加があった。刈り取り体験中に雨が降り出し、予定を切り上げての進行となったが、古代米の試食会は、小さな子どもさんもお変わりに来るほど大盛況であった。

毎年楽しみにしているのでもうしても参加したかったと、カップと長靴持参で参加していた親子連れの話がとても印象に残った。既に地域に定着したイベントであると感じた。



赤米と黒米

■12月4日(日)「出雲学フォーラム」

場所 島根県民会館

内容 年に1回県外から講師を招聘して行われる講演会。今年度は、第1回古代歴史文化しまね賞を受賞した関和彦氏を講師に迎え、『新たな出雲の神「アジスキタカヒコの旅」』という演題で公演。後半は、関氏とNPO法人会長である藤岡館長とのディスカッションも行われた。

当日は受付・会場設営等の運営補助をさせていただいたが、NPO法人の会員以外にも多くの参加があり150名ほどが関氏の講演を熱心に聴いていた。参加者は、松江・出雲地区の住民だけでなく、県西部や中には広島県から来たという方もおられ、古代出雲に対する世間の関心の高まりがうかがえるフォーラムであった。

① 研修の感想

今回の研修が実施された荒神谷博物館は、出雲市斐川町の山間にある荒神谷遺跡のそばに立地しており、古代蓮で有名な池を含む広大な敷地を有しています。博物館施設は木造の暖かみのある建物で、施設全体がスタッフの方によって丁寧に整備されていました。

今回研修に参加させていただき、地域の方と一体となっていく活動が、予想以上に多く驚きました。研修参加前は、博物館とは、専門的なスタッフの方が運営する、歴史について学ぶ専門機関であるとの認識でしたが、実際は荒神谷遺跡とは直接関係がない月見や稲刈りといった親しみやすいイベントも多く開催されており、歴史も学ぶ前の年代の子どもさんの参加も多くありました。博物館のロビーでは、様々なジャンルの写真やイラスト等の作品展も開催されており、当初の博物館のイメージを覆すものでした。

その一方で、定期講座の常連の方は知識レベルが高く、皆さん非常に熱心で、荒神谷遺跡に留まらず、出雲風土記や出雲古代史全体への関心が大変高いと感じました。地域の方が率先して、自分たちの住む出雲地域の歴史文化を学び、受け継いでいこうという姿勢が浸透していると感じました。

いずれも地域の方が活動に積極的に参加し、ボランティアやスタッフの方が一体となってイベントを運営していく形態が成り立っていることが印象的でした。荒神谷博物館は、荒神谷遺跡の出土品が常設展示されていないという事情を抱えてはいますが、だからこそ、博物館という専門機関としての枠組みにとらわれない様々な活動によって、出雲古代をPRしていこうという姿勢は大変勉強になりました。

② その他特記事項

研修日程が飛び飛びになってしまったため、毎回雰囲気慣れるのに時間がかかってしまったことが反省点です。また研修期間が短いので、気になることは時間を見つけて積極的に質問すると良いと思います。

最後に、お忙しい中研修に受け入れてくださったスタッフの皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。